

「けやき俳句の会」会報(第二十回)

令和三年三月三日

第二十回句会記録

★日時 令和三年三月三日

★場所 紙上句会

★参加者十九名 (総数五十七句)

★真樹先生投句 (○内の数字は得票数)

- ⑤ 一筋の野川の蛇行春連れて
- ③ 自粛延長なればたつぷり寝て雨水
- ② 履き癖の靴を並べて凍て返る

真樹先生選句 (◎は特選)

- ◎④ 波音も春めく渚魚が跳び
- ◎② 自転車の次々倒る春嵐
- ◎② 二月尽朝の青空肺に入れ
- ◎① 探梅のそぞろ歩きや昼の月
- ◎① 多摩の郷春の山菜多種多様
- ⑨ 駆け抜けし志士の風貌菜の花忌
- ④ 風信子今年も庭石脇に咲く
- ③ 雛飾る妻と二人の日暮れかな
- ③ 風光るワクチン届ける飛機見上げ
- ③ ふうらここの軋むリズムを音符にす
- ② 辛夷咲く郷はまだかと便り書く
- ② 一月は三寒四温の乱高下
- ② 梅の里靴の埃のうっすらと
- ① 春の野に咲くを千切りて壺に挿す
- ① 自粛なれど妻と探梅夕茜
- ① 薔薇の芽の胎動日差し柔らかに
- ① 針供養若き日雑巾縫ひしかな

会員互選句

- ⑥ シャガールの藍めく夜空冴え返る 東洋
- ⑤ ベランダのシート帆となる春疾風 東洋
- ③ 草餅や語らひ和む日和かな 久美子
- ③ 花こぶし無垢を纏ひて散るを待つ 久美子
- ③ 春の水キララ光を手にすくい 香魚
- ③ 地に落つることも厭はぬ浮かれ猫 隼人
- ② リアカーに菜の花どつさり里の昼 冬水
- ② 水琴窟音の花時小半時 夢城
- ② 春めくや大樹の瘤に笑みを見し 一華
- ② 早三年母亡き今も吊るし雛 真弓
- ② 水温む水の輪乱す鯉二匹 樹音
- ② 大年増集まりもてなす雛祭 香魚
- ① 藍染の句帳カバーや青き踏む 藍愛
- ① 砂場には若き母子ら春めけり 藍愛
- ① 寒戻る遠き筑波嶺黒々と 藍愛
- ① うつむいた心起こして春の雲 香魚
- ① 子等遠し便りは無くも春一番 秋雲
- ① 剪定の大樹黒々只黙す 一華
- ① 河川敷カメラ賑わす寒桜 盈光
- ① 食卓に菜花のしたし春来たり 蕉哉
- ① 病む枝を抱えし梅の花広む 冬水
- ① 二月尽未だ覚めざる蛹かな 清明

【次回開催】

令和三年四月七日

三句提出